

集合時間の30分前には大半の参加者が集まり、出発を心待ちにしています。

「農業に力を入れていての方の話聞き、千歳の実際の農業に触れてみたい」と参加者から期待の声が上がります。

市民協働事業としてこの事業を運営する「NPO法人千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク」の会員がマイクを握り、いざ出発です。



どのような体験ができるか期待を胸にバスに乗る参加者の皆さん

特集 まちめぐりガイドバス同乗体験記！

① 駒里農村再生特区

最初の見学地は駒里地区の農村再生特区です。ここは、以前千歳川放水路の建設が予定され、農村としての整備が進みませんでした。そのため、農村再生を目指し、平成15年に特区に認められ、新規就農の面積の規制が緩和された地域です。

農地を購入し農業を始めるときは、農業委員会の許可が必要です。このとき通常は2ヘクタール（約6千坪）以上の農地が必要です。これが駒里地区では10アール（約300坪）以上に引き下げられています。

この地区では小さな面積から農業を始められるため、農業に参入しやすい利点があります。その結果、意欲ある新しい農業者が集まり、地元の方と一緒に



駒里地区農村再生特区の風景

地域を活性化していくことが期待されています。

ここでは新規就農を希望する方用に400坪から500坪ほどに区画された農地が用意されていて、道内外から営農を目指す方が移住しています。

今回は、昨年、この地区に移住してきた山口洋子さんのご自宅を訪問し、農村地域での生活についてお話を聞きました。

参加者は、引き続き同様に農業を始めた周辺の農家を見学しました。無理のない範囲で農業を楽しむ姿に「千歳にこんな地域があることは知らなかった」、「ここで暮らすと楽しいでしょうね」などと感想を話していました。

普通、新規就農にはスタート時点から大規模営農が必要で、資金面や手続き、研修への参加など規制が多く若い方でも就農がむずかしくなっています。駒里地区では自分の力量に合わせて農業を始められるので、将来、農家として大規模化することも可能ですし、老後を楽しむ程度に営農することもできます。農村生活を楽しむことが第一です。ここでは地域の方との協力体制がはじめてからできています。私も人の力で農村を復活させたいと思います。



駒里地区農村特区について説明していただいた山口さん。「冬の駒里も美しいですよ」



山口さんから説明を受ける参加者